

2025年2月 旅行取扱高状況報告

＜ 日本国内における旅行区分別取扱高 ＞

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	26,919,836	24,394,892	110.4%
国内旅行	5,593,116	5,359,994	104.3%
訪日旅行	943,985	766,520	123.2%
合計	33,456,938	30,521,407	109.6%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデーラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

■海外旅行

2月4日より「春旅応援キャンペーン」と題して、シニア割やご夫婦割、ゴールデンウィーク割をはじめ、海外航空券とホテルを組み合わせた「AirZ（エアーズ）」商品の割引施策を展開するなど、4～6月出発の取り込み強化を図りました。また、シンガポール政府観光局と共同で、VTuberを起用した「HISでメイトなシンガポール旅」キャンペーンの実施や、シンガポールの観光地を舞台としたRobloxゲーム「Singapore Freeze Tag」の開発など新たなファン層の獲得に努めました。取扱高においては、アジア方面が牽引しており、特に台湾が前年同月比124.3%と高い伸びをみせました。また、好調が続くヨーロッパ方面では、添乗員動向のイタリア、フランスツアーが、学生を中心に卒業旅行の人気を博したことに加えて、トルコ・エジプトといった中近東が前年同月比で180.4%と高い伸びをみせたことにより、ヨーロッパ・中近東・アフリカ方面が前年同月比115.8%となりました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比110.4%の269億1,983万円となりました。

＜ 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ ＞

方面別	前年同月比
アジア	112.1%
オセアニア・南太平洋	94.5%
ハワイ・ミクロネシア	111.4%
欧州・中近東・アフリカ	115.8%
北米・中南米	100.7%

商品別	前年同月比
手配旅行	108.4%
企画旅行	113.0%

チャネル別	前年同月比
店舗	104.0%
オンライン	116.1%

■国内旅行

4月13日より大阪・夢洲で開催される「2025年日本国際博覧会 ©Expo 2025（以下、大阪・関西万博）」のPRゴールドパートナーとして、更なる盛り上がり後押しすべく、「関西キャンペーン」を実施しました。大阪・関西万博の入場券付ツアーの早期割引施策や、長期滞在の需要を見据えた連泊特典といった追加商品を展開しました。取扱高においては、2月に需要が高まるスキー＆スノーボードの日帰り・宿泊バスツアーにおいて、長野県の大雪の影響に伴うバスの運休や遅延など、一部影響を受けたものの前年並みを維持しました。また、冬の風物詩である山形県の蔵王樹氷のライトアップと銀山温泉に行く宿泊バスツアーが売上・送客ともに好調に推移し、バスツアー全体で前年同月比107.7%となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比104.3%の55億9,311万円となりました。

■訪日旅行

シンガポール最大の旅行博覧会である「NATAS Travel 2025」を通じて、個人旅行商材の販売促進を図るとともに、現地旅行会社との関係構築と取引先の新規開拓に努めました。取扱高においては、北米からの団体旅行の受客が好調に推移しており、東京・箱根・富士山・京都・大阪といった定番のゴールデンルートを中心に好調に推移し、前年同月比137.8%と取扱高を牽引しました。個人旅行においては、長野県の地獄谷野猿公苑にて温泉に入るニホンザルを見に行く、関東発の「スノーモンキーバスツアー」が、オーストラリアやアメリカ、欧州、アジアなど、幅広い国と地域の訪日旅行者より好評を得ており、前年同月比で205.6%と人気を博しました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比123.2%の9億4,398万円となりました。

2025年2月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比109.6%の334億5,693万円となりました。

2025年2月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	10,721,789	9,796,903	109.4%
アウトバウンド	13,299,964	16,976,047	78.3%
合 計	24,021,753	26,772,951	89.7%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 32 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

■海外インバウンド

海外現地法人の新たな取り組みとして HIS アメリカ法人と株式会社ネイキッド、株式会社シナスタジアの共同プロジェクトとして、XR 技術を活用した新しい体験型のバスツアーを 2 月 13 日よりハワイで運行を開始しました。次世代 XR テクノロジー「RideVision」を搭載した EV バスで、新たなハワイの魅力体験できるツアーを、HIS ハワイ法人が運営事業者として提供します。

取扱高においては、円安の影響を受けにくい東南アジアにおいて、インドネシアでは日本からの社員旅行や教育旅行が増加したことに加え、春節に伴う中華系マーケットからのバリ島のホテル予約が取扱高の増加に貢献し、前年同月比 114.1%となりました。フランスでは、日本から高校・専門学校の修学旅行や大学の交流会といった教育関連の旅行が取扱高を牽引し、前年同月比 121.8%と好調に推移しました。また、11 月～3 月がベストシーズンにあたるエジプトでは、定番のナイル川クルーズ付添乗員同行ツアーの予約が好調であったことに加え、ヨーロッパマーケットからの集客が増加し、前年同月比 175.7%と高い伸びをみせました。カナダでは、ウイスキーやバンフでのウィンターアクティビティに関する商材が取扱高を牽引するものの、暖冬による雪のコンディション悪化が顕著に影響し、前年同月比 80.4%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 109.4%の 107 億 2,178 万円となりました。

■海外アウトバウンド

海外アウトバウンドは全体的に鈍化傾向にありながら、タイでは、現地日系企業の社員旅行や、ローカル企業の日本行きインセンティブ旅行などが取扱高の増加に貢献し、前年同月比 132.7%と好調に推移しました。また、マレーシアでは日本の春休みに合わせ帰国する現地日系企業向けの渡航需要が好調であったことに加え、法人契約件数が増加したことにより、前年度同月比 190.4%と好調に推移しました。一方、取扱高を大きく牽引するカナダでは、引き続きカリブ海周辺のメキシコやプエルトリコ、欧州のポルトガルやギリシャなどのリゾート地の人気が見られたものの、アメリカの経済政策に関する影響によりカナダドルの下落などの影響を受け、アメリカへの渡航需要が減少したことが影響し、前年同月比 75.8%となりました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 78.3%の 132 億 9,996 万円となりました。

2025 年 2 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 89.7%の 240 億 2,175 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R 室：050-1746-4188
 広報室：050-1746-4177